

社会を支えた石の技術
～その成立と展開を考える～

第2回「城郭の石積み・石垣」

～ 武田氏館跡から甲府城跡へ～

講 師 甲府市教育委員会
佐々木 満

主 催 山梨県生涯学習推進センター・山梨県埋蔵文化財センター

城郭の石積み・石垣 ～武田氏館跡から甲府城跡へ～

甲府市教育委員会 佐々木 満

1 はじめに(用語の定義)

石積みの定義は、基本的に石を積み上げただけの低い石積みであり、石垣の定義は、石積みの裏にこぶし大の裏込め石(栗石)等を入れて排水対策を施したものを指す。よって、石積みと石垣は区別して扱われている。

2 山梨県内に残る城郭の石積み・石垣

中世:武田氏館跡・要害山・勝沼氏館跡・獅子吼城跡・本栖城跡・真篠砦・葛谷城跡

近世:甲府城跡・勝山城跡

3 武田氏館跡の主な石積み・石垣の様相

武田氏館跡は、永正16年(1519)武田信虎によって造営され、天正9年(1581)に一時廃城。その後、徳川氏・豊臣氏により甲府城築城までの間利用された。よって、年代的には永正年間から文禄・慶長年間まで機能したと考えられ、残された石積み・石垣もこの時間幅で捉えられる。

(1) 主郭

①中曲輪…中曲輪中段に自然石を用いた石塁(材:安山岩等、積み方:野面積み・横目地)

②天守台…主郭土塁を利用し、北西隅に構築されている。東・南面の2面に高石垣があり、基底部から天端まで一度に積まれている。多少反返しがある。西・北面は低石垣によって区画されており、建物が存在した可能性もある。多くは無加工の自然石が用いられている。

(『甲斐国志』に礎石の記載あり。)

③大手虎口…土塁腰石垣(大型の石材を3・4段積む。)

現大手土橋石垣(北面:二段積み・南面:天守と同じ積み方。)

旧大手土橋石積み(発掘調査によって部分的に確認。裏込めはなし。)

④西虎口…土塁腰石垣(大手より小型の石を中心に3・4段積む。)

土橋石垣(北面:二段積み・南面:崩落により積み直されているため不明)

⑤主郭南土塁…基底部石積み(土塁基底部に埋め込まれており、裏込め等は不明。小型の石を積上げている。)

(2) 西曲輪

①北側枡形虎口…1・2号門跡の両脇に存在。枡形内側に位置する2号門跡では乱雑ながら大小の石を混ぜた石垣が存在。

②南側枡形虎口…枡形外側に位置する1号門跡はすでに消滅しており、2号門跡両側に北側同様の石垣が存在。

(3) 北側諸曲輪

①味噌曲輪馬出土塁…土塁表面に貼り付けるようにして石が積まれていた。裏込めなし。

②味噌曲輪西土塁…土塁腰石積みで小型の石を箱積み。裏込めなし。

(4) 大手

大手石塁・・・発掘調査によって全体規模が判明。検出された石塁は、全長約 25.3m、張出し幅約 11m、高さは南側 1.4m、北側 0.6m の総石垣の石塁。惣堀土塁隅に築かれた石垣とともに枡形虎口を形成。石塁内部はほぼ栗石が充填されていた。

4 武田氏館跡の石積み・石垣の特徴と年代

(1) 石積み・石垣の特徴

石積み・石垣が用いられている場所は、曲輪の区画や土橋、虎口、天守で確認されており、虎口・天守などは建物と関連する。特に土留めとしての役割と、安定した直立面が構築可能であることから、必要に応じた敷地が確保可能であり、門のような建物を設ける際にも便利であったと考えられる。

露出している石積み・石垣遺構の多くは、石材も比較的大きなものが用いられているが、全体的に横目地が意識され、石の配り方に規則性が見受けられるものもある。しかし、館跡主郭の土橋については、下から一度に積上げることができず、ある高さまで積んだところでセットバックして積上げる段構造の積み方が採用されており、この館の石垣の一つの特徴となっている。

(2) 石積み・石垣の年代

- ① 石積み(旧大手土橋・主郭南土塁・味噌曲輪)・・・武田氏段階
- ② 石垣(現大手土橋北面・西虎口土橋北面にみられる二段積み石垣)・・・年代不明
- ③ 石垣(石塁などその他の遺構)・・・武田氏滅亡後(豊臣系大名)

5 近年の発掘調査により明らかになった県内の石積み・石垣城館跡

新府城跡(主郭土塁腰石垣・乾門枡形虎口)・・・石積み

年代:16 世紀後半(天正9年・10 年)

勝山城跡(二の丸・お茶壺蔵跡など)・・・石垣

年代:16 世紀末～

寺院跡

山梨学院大学川田運動場遺跡群(寺院敷地区画)・・・石積み

年代:15 世紀後半～16 世紀前半

深山田遺跡(寺院敷地区画)・・・石垣

年代:16 世紀末～17 世紀前半

6 武田氏館から甲府城へ

武田氏館跡の石垣には管見の範囲では自然石の無加工の石材が用いられており、矢で割った石材は確認されていない。割り石は自然に割れたものを使用か、ゲンノウで粗く叩き割ったものに限られる。

一方、甲府城跡で使用されている石材は天守台を含む初期の石垣にも矢が使用されており、割り石が用いられている。このことは、石材の調達と密接な関わりがあることは言うまでもないが、技術的にも武田氏館跡の石垣を積んだ職人集団とは異なる可能性が高いと考えられる。

よって、16 世紀末期の加藤光泰から浅野長政・幸長への領主交代と石垣の技術変化は連動する可能性がある。